野菜・畑作用殺虫剤

プレバソン® フロアブル5

powered by
RYNAXYPYR®
ACTIVE INGREDIENT

夏場のチョウ目害虫防除に、
無人航空機という新たな選択肢を。

無人航空機に適用拡大!

機体名:MMC940AC
写真提供元:(株)丸山製作所

©2018 FMC Corporation. All Rights Reserved. FMCとFMCロゴは、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社、®を付した商標は、米国デュポン社またはその関連会社の登録商標です。

チョウ目害虫に素早く長い効果

チョウ目害虫の食害を素早く止め、残効の長さで散布回数や防除コストの削減が期待できます。

葉裏まで効果を示す優れた浸透性

有効成分が葉表から葉裏まで浸透し、葉裏に潜む害虫も防除。

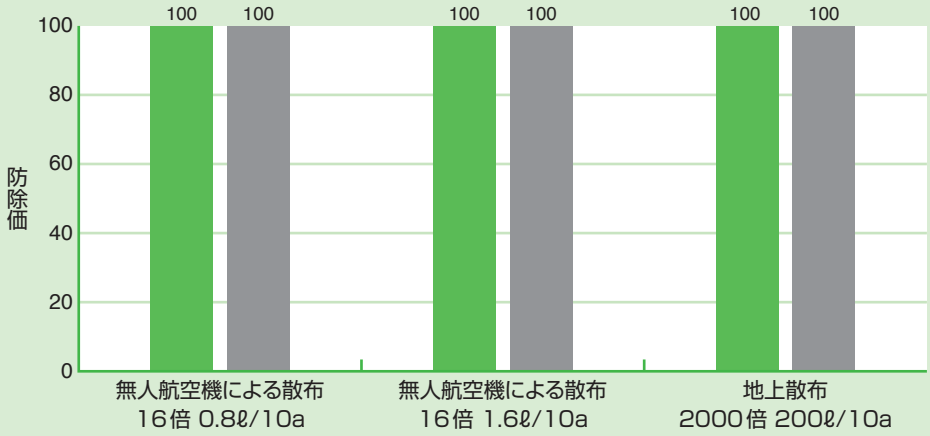
無人航空機でも使用可能

高濃度少量散布でも高い効果と作物安全性を実現。

ナカジロシタバに対する防除効果

無人航空機による高濃度少量散布でも、地上散布と同等の防除効果が確認されています。
薬害はありませんでした。

【試験概要】
試験年度：2017年
実施場所：千葉県成田市現地圃場
品　　種：ベニアズマ
処 理 日：2017年8月29日
使用機種：ヤマハR-MAXタイプⅡ
発生条件：少発生



適用害虫と使用方法（適用表から一部抜粋）

2018年8月現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
かんしょ	ハスモンヨトウ	2000～4000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	ナカジロシタバ	4000倍					
		16倍	0.8～1.6ℓ/10a			無人航空機による散布	

【上記以外の登録作物】キャベツ、はくさい、かぶ、非結球あぶらな科葉菜類、タアサイ、あすっこ、アマランサス(茎葉)、なばな、だいこん、はつかだいこん、カリフラワー、ブロッコリー茎ブロッコリー、はなっこりー、レタス、非結球レタス、トマト、ミニトマト、なす、とうがらし類、ピーマン、きゅうり、ズッキーニ、メロン、すいか、とうがん、いちご、せり科葉菜類、パセリ、らっきょう、ねぎえだまめ、だいず、未成熟そらまめ、さやいんげん、いんげんまめ、実えんどう、さやえんどう、やまのいも、さといも、アスパラガス、ほうれんそう、モロヘイヤ、エンサイ、つるむらさき、バジル、しそえごま(葉)、ふき、クレソン(土耕栽培)、ごま、とうもろこし、オクラ、しょうが、たばこ

⚠効果・薬害等の注意

●使用前によく振ってから使用してください。
●使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
●散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。
●使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
●本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ってください。
　①散布は散布機種の散布基準に従って実施してください。
　②散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
　③散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
●過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用してください。
●つまみ菜、間引き菜には使用しないでください。
●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
●適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
●本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

⚠安全使用上の注意

●誤飲などのないように注意してください。
●本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗してください。
●本剤は皮ふに対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。
●使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮ふに付着しないよう注意してください。
●水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
●無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
●使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

殺虫剤分類　28

殺虫剤抵抗性管理(IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、プレバソン®フロアブル5または他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーション使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
(1)Insecticide Resistance Action Committee(IRAC)ウェブサイト
〔http://www.irac-online.org〕
(2)http://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/IRAC

●ラベルをよく読んでください。　●記載以外には使用しないでください。　●小児の手の届く所には置かないでください。
●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。　●防除日誌を記帳しましょう。

日産化学株式会社
東京都中央区日本橋二丁目5番1号
ホームページ https://www.nissan-agro.net/
お客様窓口 TEL.03-4463-8271(9:00～17:30 土日祝日除く)